

# OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



## プロフィール (Profile)

氏名 齊藤由紀乃  
所属 大阪公立大学 文学部 言語文化学科  
学年 4年

留学先 ハンブルク大学

留学期間 2022/4/2~2022/9/20

記入日 2022/10/17

## 留学レポート Study Abroad Report

みなさん、こんにちは。大阪市立大学（現・大阪公立大学）文学部言語文化学科独文コースの齊藤由紀乃と申します。

私は2022年4月から9月までの半年間、ドイツのハンブルクに留学しました。留学してみようと思ったのは、ドイツ語力を鍛えたかったからであるのはもちろんのこと、幼いころからあこがれのあったドイツで暮らしてみたい、実際に住んでみなければ見えてこないドイツの文化を肌で感じたかったからです。

私は今まで一人暮らしをしたことがなく、初めての一人暮らしが海外ということでかなり不安でしたが、現地のチューターさんやハンブルク大学の先生方、そして父の仕事仲間で幼いころから付き合いのある知人たちが親身になってたくさんサポートしてくれたため、この半年間は非常に充実した留学生活を送ることができました。とはいえ、やはり困ってしまったこともあったので、それもこのレポートの中でお伝えできればと思います。

まず、大学生活についてお話しします。最初、どのレベルの授業が受けられるかどうか測るためのテストがありました。そこでB1以上の成績だと、A1やA2よりも多くの授業をとることができたのですが、私はなんとかB1をとることができたため、週4日で計5コマ授業を受けていました。これでも他の交換留学生には多いと言われていたのですが、無事すべて単位を取得することができたので、このくらいでも問題なかったと思います。ただ、文法の授業とライティングの授業を取っていたのですが、どちらも課題がかなり多く、特に文法は期末のようなテストが二回もあったため、少し大変だったのは否めませんが…。授業後は、週に1回ほど行われる日本語学科のボランティア授業に参加していました。ハンブルク大学には日本語学科があり、その学生がチューターになってくれます。自分のチューター以外の日本語学科の生徒とももちろん交流はあるのですが、やはりこのようにボランティア授業に参加したりすると、いろんな現地の学生とお話しする機会が増えたので、ドイツ人の友達もかなり増えました。その授業後にはみんなで食堂に行ったり、公園にビールを飲みに行ったりして、非常に楽しかったです。交換留学生と日本語学科の学生とのパーティーをすることもあったりと、良い関係を築けていたと思います。また、この日本語学科の学生とはタンデムもよく行っていました。タンデムとは、それぞれのネイティブが互いに勉強したい言語を使ってたのしくおしゃべりすることで、その言語でのコミュニケーション力の向上を目指すという一種の勉強法です。先ほど述べたような公園に行ったりするのも、私たちにとっては遊びでもあり、タンデムでもあったため、毎回楽しく行うことができました。



次に、寮生活についてお話しします。  
日本の一般的な学生寮とは違いとても自由でしたし、アクセスもとても良く、バーやジムなどもあってそこまで悪くはなかったです。しかし、フラットメイトが自分以外全くドイツ語を話せないメンバーになってしまったことがあり、私はまさかドイツで、寮といえど英会話が主体になるとは思っていなかったため、「自分はドイツ語を勉強しに来ているのに、なぜ英会話で悩まなければならないんだろう」と強いストレスを感じることもありました。そして、やはり異文化理解に悩まされることもありました。特に衛生観念の違いは最もつらかったです。このように、他人と、しかも異なった文化で育ってきた人と共に暮らす寮生活は、しんどい思い出も少なくありません。

次は、週末や夏休みなどの休暇の過ごし方についてお話しします。  
週末は日本語学科のドイツ人学生と食事に行ったり、ハンブルクを観光したりしました。ハンブルク以外にもベルリンに行ったりしました。また、日本人交換留学生とヴェルツブルク、ニュルンベルク、ローテンブルクに行くこともありました。ローテンブルクではマイスタートウルクの祭りに参加することができ、非常に良い思い出となりました。  
特に予定のない週末は、もちろん寮でゆっくり過ごすこともありましたが、一人でハンブルク中央駅周辺に繰り出してショッピングをしたりすることもありました。  
イースター休暇は、チューターさんの一人の実家に招待してもらい、カラフルなイースターエッグを作ったり、イースターの焚火を見たりと、貴重なドイツのイースターを体験させてもらいました。  
5月に一週間ある休みには、イギリスに留学している高校時代の日本人の友達に会いに行きました。その後、今度は逆に向こうがハンブルクに遊びに来てくれたのもとても良い思い出です。  
夏休みはイタリアへ10日間、そのイギリスにいる友達と日本から来た共通の友達の3人で旅行に行きました。  
残りはサッカー観戦に連れて行ってもらえたり、私の誕生日パーティーをしてくれたりしました。

夏休みは長いと思いきや楽しかったこともありあっという間で、すぐに帰国準備に取り掛からなければなりませんでした。またその帰国準備が意外と大変で、あっという間に帰国の日が来てしまいました。

ここまで長々と書いてきましたが、留学を終えた感想は「本当に楽しかった。行ってよかった！」に尽きます。  
最初の2週間ほどはホームシックになったり、時にはつらいこともありましたが、今後の人生においてもずっと最高の思い出、最高の経験として心に残り続けることでしょう。  
現在、留学しようか悩んでいる人は、ぜひ勇気を出して挑戦してみることをおすすめします。きっとみなさんにとってもかけがえのない人生の財産を手に入れることができると思います。



ハンブルク市庁舎



赤レンガ倉庫